

柳泉園NEWS

りゅうせんえんニュース

1990.7.16 SUMMER VOL.

14



なぜ今、ごみの減量か

柳泉園組合管理者 末木達男

最近の都市のごみ問題は、自然環境や地理的な制約がある中で、資源、事業活動(生産)、消費生活まで及ぶ広い範囲で考え、諸活動のあり方を見直すことが必要になっています。

東京都の関係機関では、「清掃事業の今後のあり方について」、実現しなければならない課題の一つとして、「ごみの減量」についてあげ、ごみの減量を「①ごみの発生を抑制(省資源化)すること。②ごみの有効利用(再資源化)をすること」という、二つの行動に分けて考え、今後、積極的に推進する方向にあります。また、各自治体も同様にそのような動きがあります。

都市社会においては、生活の便利さ豊かさを求めるほど、その反動として、ごみの量・質ともに増えますが、自然界はそれを無制限に許して、受け入れ

てはくれません。

今、私たちが住んでいる社会のごみ問題を、環境問題や資源の問題としてとらえ、資源の浪費をなくし節減をして省資源化を行い、資源として再生利用ができる有用物を分別、回収するなど、住民、事業者、行政が一体となって、立場の異なるものが共通の目標に向かって、解決していくことが求められています。

したがって、私たちは生活と自然環境との関わりにおいて、地球の資源と環境は、無限ではないことを認識して、日常生活のあり方を見直し、できるだけ環境の破壊を進めないように、ごみの減量化をするため、家庭、職場などで工夫することが大切だと思います。

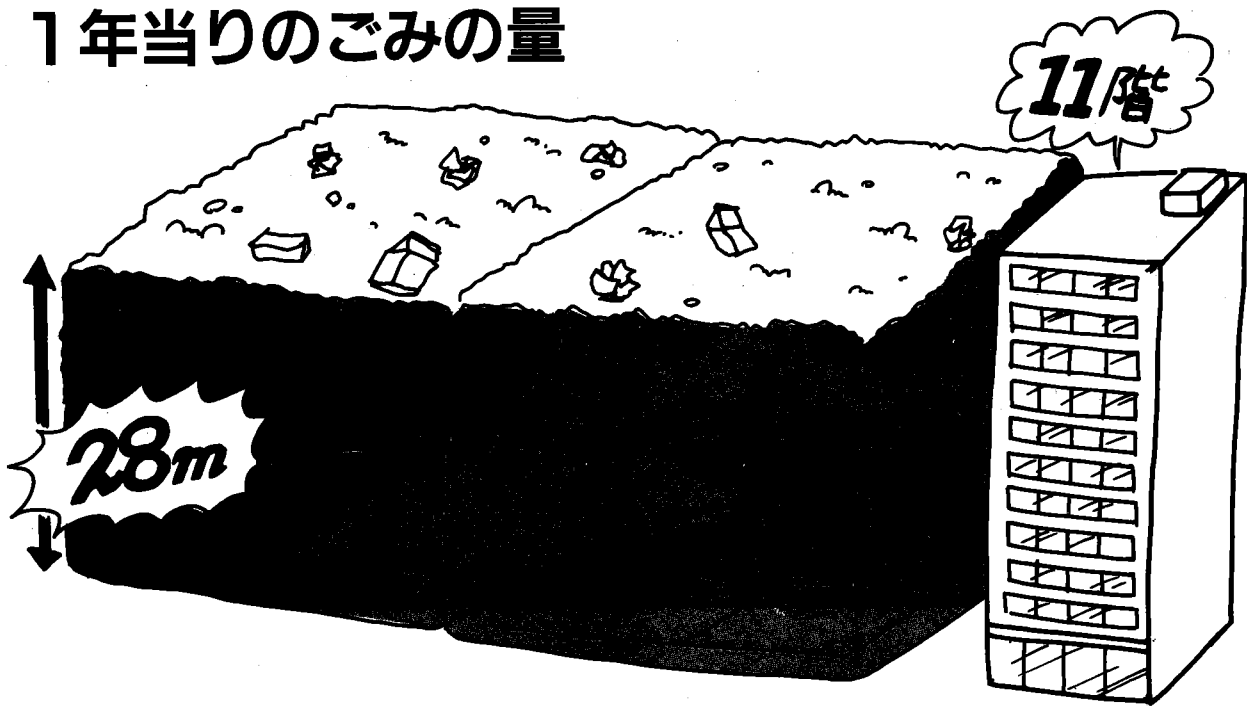
平成元年度のごみ処理量

平成元年4月から平成2年3月までの1年間、柳泉園組合に搬入され処理した、ごみの量を見ると、可燃ごみについては、90,078トン(前年比2,332トン、2.7%の増)、不燃、粗大ごみについては、19,381トン(前年比181トン、0.9%の増)、総合計で109,459トン(前年比2,513トン、2.3%の増)となっています。特に、粗大ごみは、1,313トン処理しましたが、

前年度に比べて、約100トン、8.3%増えています。中でも、家電製品、家具類、自転車などの耐久品が比較的多くなっています。

ごみの搬入量を5年前の昭和60年度に比べてみると、総合計で13,849トン(14.5%)、車の台数にして9,027台(10.1%)増えて、車の長さ(1台5.18M)を距離に換算すると、約47kmにもなります。

1年当りのごみの量



んー

まあ、すごい!

柳泉園の野球場2面に積み上げると...

ごみの量約402,169m³
野球場の広さ14,500m²

ごみの量は約28mになり約11階建てのビルと同じ高さになります。

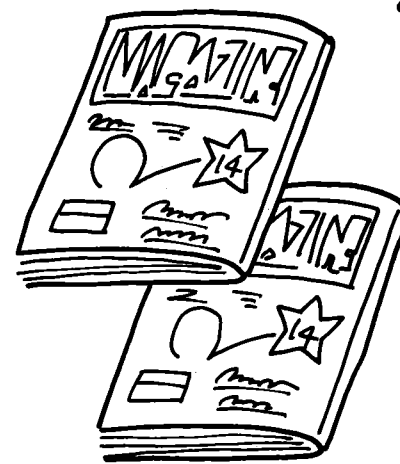


1人当りのゴミの量

昭和60年度

マンガ週刊誌 (青年誌)

1冊 約400g



約 1.9 冊分

昭和60年度1日1人当り

約780g

平成元年度

マンガ週刊誌 (青年誌)

1冊 約400g



約 2.2 冊分

平成元年度1日1人当り

約864g

施設で処理したごみを、昭和60年度と平成元年度の人口1人当たりの量にしてみると、次のようになっています。

昭和60年度の合計量 1日約780g、1年間約284kg

- ① 可燃ごみ 1日約626g、1年間約228kg
- ② 不燃、粗大ごみ 1日約154g、1年間約 56kg

平成元年度の合計量 1日約864g、1年間約315kg

- ① 可燃ごみ 1日約711g、1年間約260kg
- ② 不燃、粗大ごみ 1日約153g、1年間約 56kg

関係4市の人口の合計は、昭和60年の10月と平成元年の10月を比べると、約3.3%伸びていますが、人口の伸び率に比べて、ごみの伸び率は多く合計で約10%となっています。ごみの合計量を市別にみると、約4.5~21%の範囲で伸びています。

なお、不燃、粗大ごみについては、資源回収をしている市は約9.7%~22.5%の減、それ以外の市は約10.3%~21%の範囲で伸びています。

ごみの量がこのまま増えると、数年先に、高額な費用で処理施設を建設することが必要になります。

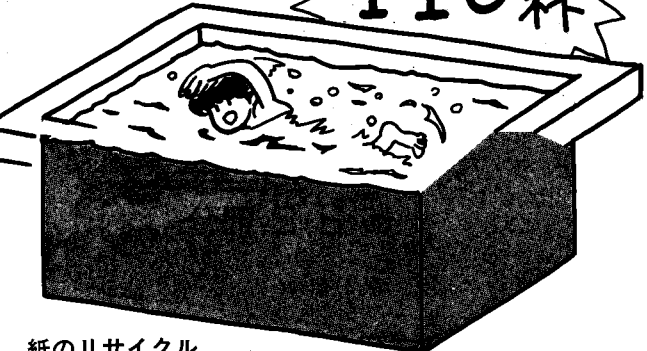
予算はこうして役立てています

ごみ処理には処分場が必要です
 ごみを処理しても、最後に残るものがあります。いまのところ、埋立て処分場がなくはごみ処理ができません。施設で処理したあとの灰（燃えがら）と夾雑物（不燃ごみ等の残渣）は、日の出町にある処分場に埋立てをしていますが、この処分場は、平成8年頃までと予想されています。

ごみの焼却施設から出る灰は、ごみを燃やした量の約15%出ますが、平成元年度は14,169トンの灰と、粗大ごみ処理施設で処理した後の不燃ごみの夾雑物は約10,688トン埋立てをしました。

平成元年度に埋立て処分をした灰と夾雑物は、容積にすると合計で約43,060m³になりますが、柳泉園にある温水プール（25メートルプール、390m³）に換算すると約110杯分に相当します。

110杯



紙のリサイクル
 紙の原料は木材で、それは森林資源と密接に結び付いています。紙の需要が増え続け、木材の伐採が多くなると、自然を荒廃させることになります。近年は、特に事務所などのOA化に伴って、紙の消費量は増大しているようですが、木材資源としても問題となって、新しいパルプから作られる紙に変えて、古紙を原料として作られる再生紙を使う動きがみられます。古紙1トンから約850kgのパルプが作られ、それは直径14cm、高さ8mの立木20本分のパルプに相当し、わが国では現在、年間1,200万トン以上の古紙が使われ、これを立木に換算すると2億4千万本に相当するそうです。
 古紙の利用は、省エネルギーにもなります。木材をパルプ化して紙にする場合に比べ、3分の1～5分の1程度のエネルギーですみ、エネルギーの大きな節約になるといわれています。

再生資源を回収して、ごみの減量
 平成元年度に組合の施設で処理した、不燃ごみと粗大ごみは、19,381トンありましたが、そのうち、機械と手選別によってごみの中から、ガラス類、鉄類（スチール）、アルミ缶など、約4,863トン（約25%）を回収し、再利用を図りました。

また、組合を構成する四市の中でも、市民と業者などの協力によって再生資源の回収を実施している市があり、そのことによって、組合に搬入され処理した不燃ごみ等の量は、ほぼ5年前と同じくらいの量になり、減量効果が現れています。

「混ぜればごみ、分ければ資源」になります。私たちが毎日の生活で利用している、飲料水などのガラス瓶、スチール及びアルミ缶などは、地球の限りある資源で作られていることを考えると、再び資源として再利用（リサイクル）することは、とても重要なことであり、生活環境を保全する上からみても効果のあることです。

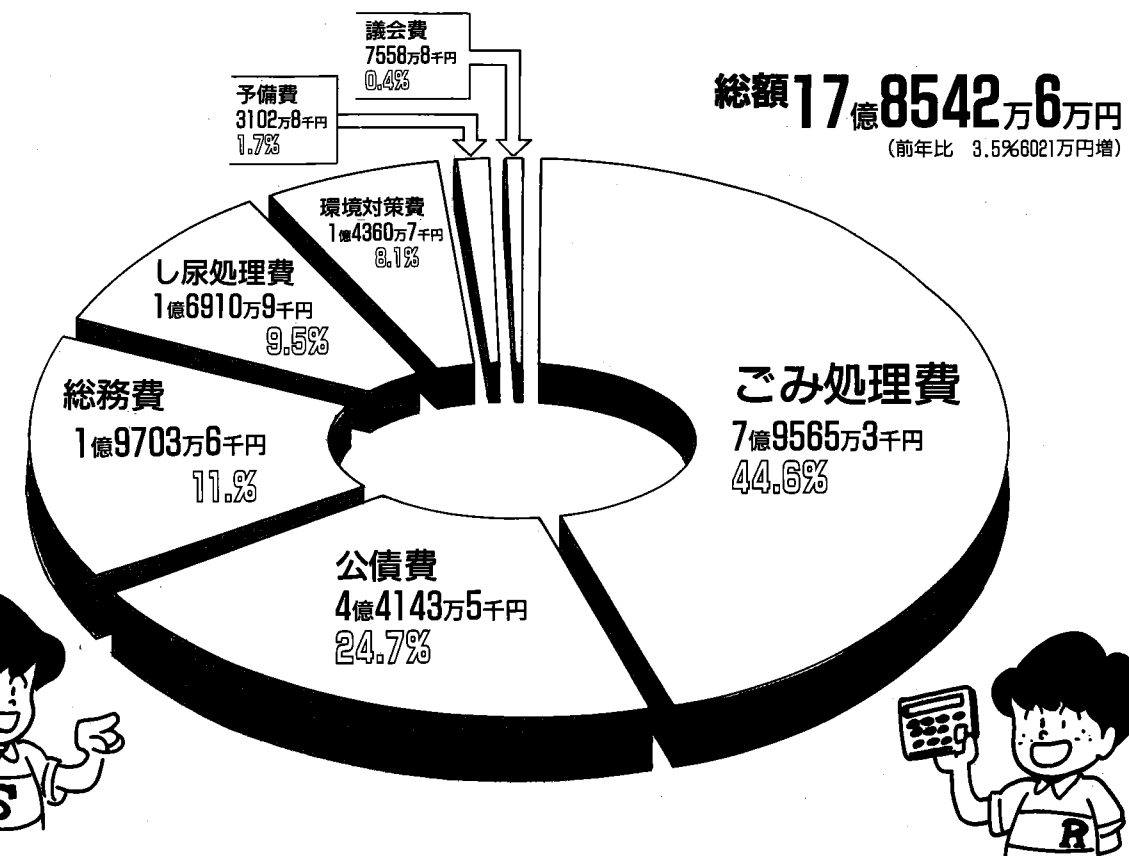


限りある資源です
リサイクルに協力しましょう!

三二解説

割り箸のはなし
 昭和62年度の割り箸の消費量は、205億膳（国民一人当たり約170膳）となっている。原材料の内訳は国産材約18万m³（44%）、輸入材約8万m³（20%）、製品輸入15万m³（36%）。製品の輸入は中国から44億膳（製品輸入量の54%）、インドネシアから16億膳（同20%）、韓国から9億膳（同11%）、フィリピンから9億膳（同11%）となっている。

参考図書
 環境白書（総説・平成2年版）編集 環境庁
 発行 大蔵省印刷局
 古紙のはなし 発行 財団法人 古紙再生促進センター



平成2年度一般会計予算が、3月定例議会の審議を経て、3月1日の本会議で決まりました。予算総額は17億8542万6千円です。前年度当初予算に比べ、3.5%の増加です。その主な使い道は、次の通りです。

平成2年度の予算について

- (歳出予算)**
- 議会費
組合議会の運営経費として755万8千円。
 - 総務費
組合内の共通した事務の関係費用や、会計事務などの経費として、1億9,703万6千円。
 - ごみ処理費
ごみ処理施設の第一・第二工場及び粗大ごみ処理施設の運転など、施設を維持管理する経費として7億9,565万3千円。
 - し尿処理費
し尿処理施設の運転など、施設を維持管理する経費として、1億6,910万9千円。

- 環境対策費
体育施設を維持管理する関係費用。ごみ・し尿等の施設に関する事務及び分析などの経費として、1億4,360万7千円。
- 公債費
ごみ・し尿の処理施設及び体育施設を建設した借入金の返済経費として、4億4,143万5千円。

(歳入予算)

款	金額
1 分担金及び負担金	1,538,046 千円
2 使用料及び手数料	137,110
3 財産収入	4,488
4 繰入金	32,086
5 繰越金	58,000
6 諸収入	15,696
歳入合計	1,785,426

エンジョイスポーツ
enjoy sports

プール



夏期期間の屋外プールの案内です。

7月14日(土)～8月31日(金)

時間帯

- ①午前9時30分～午前11時30分
- ②午後0時10分～午後2時10分
- ③午後2時30分～午後4時30分
- ④午後5時00分～午後7時00分
- ⑤午後7時30分～午後9時30分

●野球場 4月1日～11月30日

●テニス 1月1日～12月31日

●プール 1月4日～12月28日

☎0424-73-3121

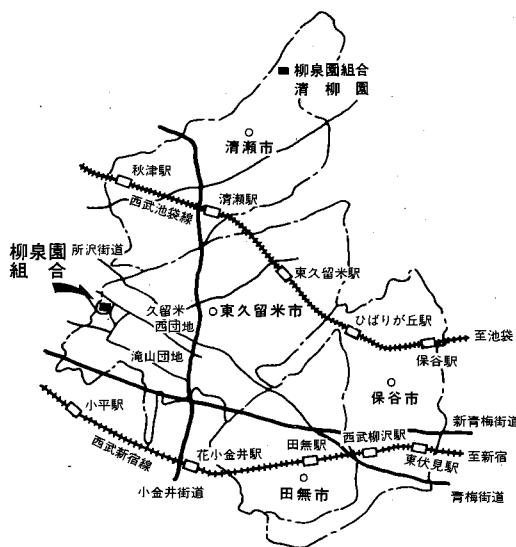
～申し込んで下さい。

Message

組合からのお願い

- ①ごみは、できるだけ出さないように心がけて下さい。ごみを処理するには大変お金がかかるのです。当組合だけでも1トン処理するのに約6,900円かかり、処理の他に議会費、総務費、環境対策費、その他公害対策費用等を加えると1トン処理するのに約12,000円かかってしまいます。ごみが少なくなるとこの費用を他の行政費用に回すことができます。
- ②ごみを出す時は、「燃やすごみ」「燃やさないごみ」に必ず分けて出すようにして下さい。このことを守っていただかないと施設を痛めたり、公害発生の要因となるため、この防止にも費用がかかります。
- ③スプレー缶・簡易ガスポンプ等は、内容物を十分出し切ったうえ、穴をあけてから出してください。なお穴をあける際には、屋外など火気等危険のない場所で行い、顔など身体にかからないように注意して下さい。
また、関係四市では有害ごみの分別回収をステーション収集方式、あるいは電気店等の拠点収集方式で市民の皆様をお願いします。これらの点についてより一層のご協力をお願いいたします。

ここが柳泉園です。



管内人口

(平成2年7月1日)

世帯数 **130,797世帯**
(前年比2,638世帯増)
人口 **350,523人**
(前年比1,857人増)